

株式会社村井水栓製作所

自分は80歳まで働けたらいい、と思っている。その時に会社はどうするの？と言われるけれど、継ぐ人がおらんかもしれんし、どこかの会社と協力するかもしれん。家業を継がす、というのは昔のことで、子どもたちには自分の道を選んでほしいと思う。

水回りにこだわらず 生活の中からヒントを見出す

私の祖父は、鑄物師として蛇口などを作っていたのですが、親父が機械を導入したのが、現在の事業の原点です。父はアイデアマンで、新しいものを作っては次々と特許（特許）を取得。私の信条も「考え方はシロウトであれ!」です。当たり前と思わず、「こんなものがあればいいのに」という日常の中のヒントをもとに、世の中になかったものを作り出しています。

電気を消すために紐にチェーンを付けていたのですが、親父がそれをヒントに、ゴム栓に金属性のチェーンを思いついたんです。さらに、私自身が風呂掃除をしていた時に、チェーンが掃除の時に邪魔になるなと気づいたんです。そこで、簡単に取り外しができるものを考案。このアイデアは、昨年4月に特許を取得しました。

例えば、浴槽の止水用にゴム栓にチェーンを付いたものがありますが、あれも当社が考えたもの。昔は、ゴム栓が硬くて水抜き穴にピタッとはまらず、水が漏れ、空焚きになるという事故が多かったそうです。そこで、穴に沿いやすい止水性を重視したゴムの素材や形状を考案。さらに、

水道部品だからと言って、それだけにとらわれていると何も思いつきません。子どものおもちゃやポンプッシュで液体調味料が出る容器だったり。いろんなものに興味をもって、便利やな、と思うことがアイデアにつながるんです。観察し、記憶し、記録して、検討し、行動する。それが、ものづくりの原点だと思っています。



代表取締役
村井啓記さん

うちの技術をどこかで使ったのか、
「ロボットの特許な継手が
作れないか」と伺うお客さまが
また、ことも。
どんなオーダーや要望にも
断らざるべしと申すので、
考へるのが、私の信条です。



自分もいつまで働くんやろうと考へた。
働けるまで働くのが幸せや。
あかんかったら、あかんやりにやっ
ていけばいい。

「あたりまえ」は、ありがたうの反対言葉。
あたりまえが、並みならぬたらあかん。
感謝をしていたら、少しのことで感謝の
気持ちになる。

年始のあけまして、従業員に伝えた
のは「経済を動かす」とは、できるさ
けど、フレキシブルな会社になんて
いって。思えば、あかんやん、
ても、あかん時はあかんやん、
悪い時は悪いやん、あかんやん、
あかんやん。



給排水管の継手やバルブなど 水回りの器具や部品を製造

村井水栓製作所は、社名からもわかるとおり、水栓、つまり水回りの器具や部品を製造している。取引先は主に、住宅設備機器メーカーや管材メーカー、商社、水道局など。同社の特徴として1個からの小ロットにも対応し、新製品開発のための試作品や既製品の対応が難しいものなど、難易度の高い要望に応えている。

同社の製品は、給排水管をつなぐ継手、バルブ、弊社では、各市町村の水道管理に使用される閉栓キャップなどがある。さらにゴム栓、電気温水用器具、建物の配管の異常を発見するテストプラグも製造している。継手の中でも特殊な「チーズ型継手」は、金属を溶かし型に流し込んで作った鋳物の中に、もう1つの部品に接して軸を支える軸受けを一体化した別注品。1か所を加工して、はさみかえて次を加工と段階を経ると、どうしてもズレが出てしまうため、当社では公差の出ない加工技術を考案している。

特殊継手やバルブなどの給排水器具には、切削加工の技術が出来上がりに大きく関わる。それを支えるのは、同社の切削加工の技術力だ。同社では切削に欠かせない治具を自社で製作。それによって、製造工程を少なくしたり、効率の良い方法で適切な精度を得ることが可能になる。また、機械が無駄な動きをしないオリジナルの加工プログラムにも工夫。加えて、加工技術者が加工方法や順序を考慮し、手動による切削プログラムをインプットすることも多い。その結果、製造コストは下がり、納期を短縮することができる。

中小企業にできることが限られている、と村井社長は言う。高性能な機械やシステムを導入すれば、できることが広がるかもしれないが、コスト面を考えると限界がある。だからこそ、できることで勝負しなければならない。その点から言うと、同社の強みは品質と生産性、コストメリットのバランスを考えた加工工程の工夫だ。設計者はクオリティにこだわり、設計図面に0.001mmまで細かくサイズを指定することも多い。反面、設計者は製造や加工工程について理解できていないことも多く、細かな指定が生産効率を下げたり、コストアップになることもある。そこで同社では、品質と生産性の拡大、コストメリットのトータルバランスを重視し、材質・材料、公差、加工工程や加工に必要な治具・刃物に至るまで、徹底した見直し、検討を行う。「納得しなければ、進められない」という精神が、同社の評判につながっている。

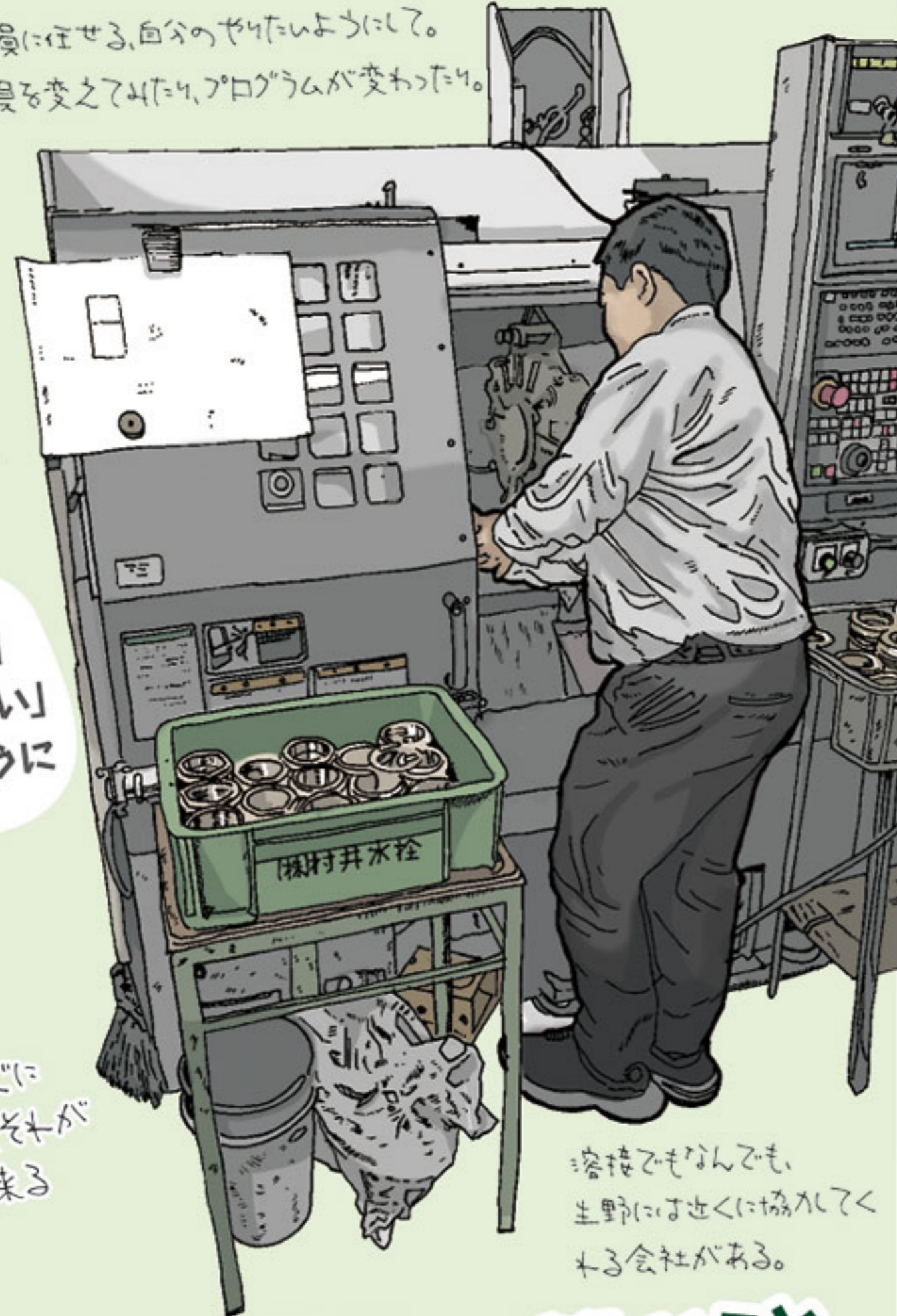
株式会社村井水栓製作所

<http://www.muraisuisen.com/>
〒544-0034 大阪市生野区桃谷3-17-9
TEL 06-6712-3153 FAX 06-6712-3177

事業内容 / 金属切削加工品、給排水器具を中心とした部品製造

社員に任せ、自分のやり方のようにして。
治具を変えて4T、プログラムが変わった。

「一般のものでも、オーダーメイドの治具を使うと、生産性が上がる。」



溶接でもなんでも、生野には近くに協力してくる会社がある。

「もうすれば鋳物に不良が出ない」「もうやれば加工品に不良が出にくい」と、徹底して生産効率を考慮するようにしています。

アイデアはすぐに伸びなくても、それが役立つ時が来るものです。

我が社の自慢 社員みんな新しいこと、良いことを考え、工夫し、行動する風土!

同社には、「かきくけこ五原則」というものがある。観察=何事もよく見なさい、記憶=記録しなさい、工夫=良く工夫しなさい、良く考えよう、検討=良く検討しなさい、これで良いかも一度考えよう、行動=良ければ行動に移しましょう の5つ。これが社員の合言葉で、社員自らが自主的に考え、常に良いものを求めて行動する風土がある。

「アイデアはすぐに伸びなくても、それが役立つ時が来るものです。」

